

請願第 24号

令和6年12月12日

川崎市議会議長 青木功雄様

幸区在住者

ほか 40名

歩道における縦断勾配の緩和を求める請願

請願の要旨

実地調査の結果、私たちの住む幸区内には、勾配が8%を超える縦断勾配（道路の進行方向に対する上り又は下りの勾配）が少なくとも55か所あることが確認されています。これらは法令等の許容範囲を逸脱し、通行に支障や危険が及んでいますので、誰もが安全に通行できるように、歩道の縦断勾配を緩和してください。

なお、改善を必要とするこうした状況は市内全域に共通するものと推察されますので、市全体の問題として検討してください。

請願の理由

1 現状

縦断勾配は歩道の切れ目にある場合が多く、法令等の許容範囲を逸脱したこれら縦断勾配のうち、その約3分の2に当たる36か所が古市場1丁目及び2丁目に集中し、ほかの地域と比べて勾配が急であることが特徴的で、最大で32.9%（約18.2度）の縦断勾配を確認しています。私たちが実地調査をしているときにも、歩道を使わずに車道を通行する車椅子利用者や歩行器を頼って移動する高齢者をしばしば見かけました。勾配や段差、凹凸が多いため、まっすぐに進むのが大変で、転倒の恐怖があるからという理由が多く聴

かれました。

車椅子や歩行器等を利用する場合、傾斜が急な縦断勾配は、たとえ、苦勞して上ることができたとしても、下りは、見た目では傾斜の程度が判断しづらくそのまま進んでしまうと転倒のリスクが高まることを、私自身も実際に車椅子に乗って実験しました。土木や人間工学等の研究者によるこれまでの研究では、車椅子利用者が容易に走行可能な縦断勾配の上限値は5%であり、縦断勾配が5%を超えると、通過することがつらいと感じる人が表れ始め、約6.5%を超えると、「つらい」、「通過できない」とする人の合計が半数を超え、8%以上ではほとんどの人が通過できないという評価結果が報告されています。

したがって、法令等で定められている「やむを得ない場合は8%」という許容範囲（法令等により「基準」または「標準」という表現になっています。）は根拠のある判断基準ですので、そうした許容範囲を超えた55か所の縦断勾配は放置することなく、一日も早く改修する必要があると考えます。

2 具体的な改善策

横断歩道接続部の設計のように、歩道の切れ目の手前から緩やかな傾斜を造り、車道との境界部分には「江戸川式」の特殊縁石を使用すれば、傾斜も段差も解決できます。

また、地下埋蔵物（水道、ガス等）の取替え工事に付随して歩道の埋め戻し工事も行われますので、工事の機会に併せて課題箇所の改修を併せて実施するなど、各事業者等と計画的に連携することが肝要です。

3 実地調査

実地調査は、3年前に一度実施しています。幸区内の全ての道路を一本一本くまなく歩いて課題の有無と程度を調べて状況を記録し写真を残しました。今回は2回目の調査として、令和5年9月から令和6年10月にかけて前回の方法に加えて、視覚障害者等の移動支援に資するように位置情報（緯度及び経度）も記録しました。

調査の結果、少なくとも1,100件以上の課題箇所（法令等の許容範囲を逸脱し、通行に支障や危険が及んでいる場所）が確認されていますが、その一部について課題ごとに整理して今回の請願で是正改善をお願いするものです。

課題箇所の件数は、前回調査実施後に改善が図られた場所や市が管理していない国道1号線については除いてあります。国道1号線における課題は、横浜国道事務所神奈川出張所に対して、令和6年7月に要望書を提出しています。

なお、記録した課題箇所の写真については省略しました。

4 根拠法令等、及び指針となり得る研究報告

実地調査及び調査後の課題並びに優先度等の評価については、以下の法令等と共に歩道の勾配による高齢者や車椅子利用者等への影響についての研究報告に照らして検討しました。

(1) 根拠法令等

- ・移動等円滑化のために必要な道路の構造に関する基準を定める省令（平成18年12月19日国土交通省令第116号）
- ・道路の移動等円滑化に関するガイドライン（令和4年3月国土交通省道路局）
- ・川崎市福祉のまちづくり条例、同施行規則、同整備マニュアル（本市）

(2) 研究報告（一部）

- ・「車椅子登坂にたいする勾配の影響について」人間工学、1974年（昭和49年）
- ・「高齢者からみた歩きやすい歩道」土木計画学研究・講演集、1995年（平成7年）
- ・「縦断勾配が車いす走行に与える影響に関する研究」土木学会論文集、1999年（平成11年）
- ・「歩道高さに関する研究」土木計画学研究・論文集、1999年（平成11年）
- ・「傾斜路の歩行安全性に関する一考察－歩行困難者疑似体験による検証－」土木計画学研究・論文集、2007年（平成19年）
- ・「車椅子を利用する高齢者のための歩道構造に関する研究」土木学会論文集、2003年（平成15年）

紹介議員

宗 田 裕 之